

ニーズの変化に対応した支援活動の展開

● ニーズに対応した支援が可能となる背景 ●

● 談話スペースの充実

ダイバーシティ推進室には、教職員のデスクスペースや対面朗読室といった支援に関するスペース以外に談話スペースがあり、利用学生・支援学生が共に集う場となっている。普段の学生生活における雑談等から支援に関することまで、幅広い交流が行われている。

● 学生の主体性

学生はそれぞれ専攻やバックグラウンドが異なるため、自分の得意分野を活かして、講習会や勉強会、広報等の活動を行っている。

● 頻繁な意見交換の場

支援において課題が見つかった際には、適宜意見交換の場が設けられる。そこでは、利用学生・支援学生、学生・教職員といった垣根無く話し合いがなされている。

● 組織

ダイバーシティ推進室を学長室下に位置付けることによって、全学的な情報共有が可能になっている。

前年度および今年度の支援状況

	2018 年度前期	2019 年度前期
利用学生	9 名	11 名
うち聴覚障害学生	3 名	4 名
支援学生	90 名	115 名
前期支援回数	208 回	166 回

事例

1. 遠隔支援

支援ニーズが他キャンパスで発生したものの、支援学生が足りない！！



他キャンパスから授業の映像を送り、支援学生がいるキャンパスからはテイク画面を送ることで、遠隔での支援が可能になった！！

2. 数式対応表

数学の授業の支援が始まったが、専門用語が出力できない！（><）



数学科の大学院生の支援学生が、読み方と出力の対応表を作成したことで、どの学生も支援に入ることができるようになった！！

※一般の人（オープンユニバーシティ、科目履修生、学会、オープンキャンパス）にも対応可

課題と展望

使用する機器の多様化

用いる支援ソフトが増えたためにソフトを設定できる学生が限られ、負担が偏っている。

専門科目の増加

同じ専攻の上級生か、授業を受けたことがある学生だと内容が分かるので支援がスムーズに行える。

お問い合わせ

首都大学東京ダイバーシティ推進室
〒192-0397 東京都八王子市南大沢 1-1
TEL : 042-677-1337(直通)
FAX : 042-677-1355
E-mail : diverwww@tmu.ac.jp